

# 武庫川臨床教育学会 ニュースレター

2023.12.10 No.22



## 第18回武庫川臨床教育学会研究大会のご案内（第1次案）

2023年度の研究大会を下記の通り開催いたします。積極的な研究発表とご参加をお願いします。

「コロナ禍」において、私たちの日常生活には大きな変化が生じました。昨年度の大会では、こうした変化が、それぞれの実践の場でどのような課題を生じさせたのか、それは援助者にどのように認識されたのかを、皆さんとともに深め合いました。第18回研究大会もまた「臨床教育学のこれまで・これから」（仮）をテーマとして、参加者の皆さんが見つめる臨床教育学の実像を浮かび上がらせていきたいと思ひます。

「シンポジウム」では、臨床教育学に学ばれてきた方々を報告者として、それぞれの臨床教育学のイメージを報告していただきます。また、「講演・対談」では、福井雅英元会長と、北海道の養護教諭である山形志保さんから「保健室から創る希望」（仮）と題して対人援助職の在り方について問題提起をしていただきます。今回は、3年ぶりに懇親会を開催し、講師である福井・山形両氏もお招きする予定ですので、是非ご参加ください。

◆ **日時：2023年3月9日（土） 10:00～17:00（受付 9:30～）**

◆ **場所：武庫川女子大学教育研究所（対面とオンラインによるハイブリッド開催を予定）**

会場での開催を基本とします。オンライン（zoom）による報告・参加も可能といたします。

◆ **日程：**

9:30	10:00	12:00	12:45	13:30	15:00	17:00
受付	自由研究発表	休憩	総会	シンポジウム	講演・対談	

終了後、懇親会を開催します。場所は検討中です。

武庫川臨床教育学会  
<http://mukogawarinkyo.com/>

〒663-8558  
 兵庫県西宮市池開町 6-46  
 武庫川女子大学教育研究所内

電話番号:075-922-7749（吉益自宅）  
 メール: mukogawarinkyo@yahoo.co.jp

◆ **参加費：会員・非会員 1000 円 / 武庫川女子大学の学生・院生は無料です。**

※ オンライン希望の方は、参加費をゆうちょ銀行の振替口座（口座番号：00940-3-224555、加入者名：武庫川臨床教育学会）に「研究大会参加費」と備考欄に記入の上、参加申込を〆切日までにご送金ください。会場参加の方は、当日に受付にてお支払いください。

◆ **シンポジウム 「臨床教育学と私」**

武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科に入学した動機、そこで学んだこと、今の問題意識など、3人の方に自由に語ってもらい、会場の方との交流も踏まえ、臨床教育学の実像に迫っていきます。

報告者・・・長谷 範子さん（名古屋女子大学）

高橋 孝子さん（豊中市教育委員会）

安井 勝さん（元立命館大学教職支援センター）

司会者・・・木田 重果さん（『臨床教育学論集』編集委員長）

◆ **講演・対談「保健室から創る希望」（仮題）**

福井 雅英さん（元武庫川臨床教育学会会長）

山形 志保さん（北海道立高校養護教諭）

◆ **自由研究発表の申し込み**

- ① 発表時間は20分、質疑応答15分を予定しています。**発表申込の〆切は2024年1月31日（火）**です。  
E-mail: [mukogawarinkyo@yahoo.co.jp](mailto:mukogawarinkyo@yahoo.co.jp) よりお申し込みください。申し込みの際、お名前（所属がある場合は所属名も）、発表のタイトル、発表の方法として「会場発表」か「オンライン発表」かを明記してください。
- ② 発表要旨の提出は2024年2月11日（日）が〆切です。発表要旨はA 4サイズ2枚以内で作成し、タイトル・発表者名を最初に書き、PDFファイルにしたものを提出してください。発表要旨の提出先は、発表申込と同様に学会のE-mail: [mukogawarinkyo@yahoo.co.jp](mailto:mukogawarinkyo@yahoo.co.jp) です。Microsoft WordのファイルとPDFファイルを添付してお送りください。
- ③ 発表者には発表後のまとめの提出（字数は1,200字程度。編集の都合上、Microsoft Wordのファイル形式で保存したもの）もお願いしています。**〆切は2024年3月31日（日）**とします。上記宛てに送信ください。

◆ **研究大会参加の方法について**

- ① 事前参加申し込み制といたします。**2024年2月24日（土）を〆切**とします。〆切日までに下記のフォームあるいはメールからお申し込みください。メールの場合、「会場参加」か「オンライン参加」かを明記してお送りください。

- Googleフォームによる申し込みはこちら：<https://forms.gle/yKHkdhWaKYtGHD3F9>  
→ スマートフォンやタブレットを用いて、右の二次元バーコードを読み取ってもアクセスできます。
- メールによる申し込みはこちら：[mukogawarinkyo@yahoo.co.jp](mailto:mukogawarinkyo@yahoo.co.jp)



- ② 参加申込をいただいた方には、オンラインでの参加方法、発表要旨集録をメールでお送りします。

※ 「会場参加」「会場発表」の方は、感染防止のため次の点にご留意ください。

- 1) マスク等による飛沫飛散防止は参加者の判断でお願いします。
- 2) 受付では氏名・所属・電話番号の記入をお願いします。
- 3) 建物入口や会場内にアルコール消毒の場を設けますので、手指の殺菌をお願いします。
- 4) 会場内での発言は、挙手をした上でマイクを通じてお願いします。
- 5) 借用している教室以外の場所やフロアへは立ち入らないでください。

※ ご質問がありましたら、メール：[mukogawarinkyo@yahoo.co.jp](mailto:mukogawarinkyo@yahoo.co.jp) 宛てにお問い合わせください。電話は吉益事務局長自宅（075-922-7749）まで。留守番電話の時は用件をお話してください。折り返し電話いたします。

## シリーズ：私と臨床教育学⑱

### 子どもの声を聴く

今井 美樹

私が大学院へ進んだのは友人の誘いによるもので、当初から臨床教育学を目指していたわけではなかった。当時の私は保育者養成校の教員としてスタートしたばかりで、慣れない仕事とそれまでの保育の現場とは異なり、人間関係や困難を抱えた学生の姿に翻弄され、授業を思うように進めることができない日々を送っていた。仕事を終え、疲れた身体で急ぎ向かった大学院での学びの中で、丁寧に話を聴いてくださる先生や同期と過ごすたおやかな時間があり、私自身が癒され、臨床の学びを少しずつ体得していったように思う。まさに上田先生の授業が臨床そのものであった。上田先生が話された言葉に忘れられないものがある。「困難な態度や言葉を発する奥には必ず、そうしてしまう背景がある」。この言葉は私の心に強烈な印象を残し、その後、大学で専任教員として日々向き合う学生との関わり方に、大きな影響を与えた。それまで不可解で理解し難いと感じ、嫌悪感すら抱いていた学生の姿によりやく向き合うことができるようになったのである。

それからの私は、学生一人一人の言葉に耳を傾け、きちんと向き合うことを心がけた。最初は何も話そうとしない学生も回を重ねるごとに、薄皮を剥ぐように心の内を少しずつ見せてくれるようになる。そして決して相手を裏切らないことによりやく私を信じ、想いを吐露し始める。私は学生の声を聴くたびに、こうして私が聴くことができるようになったのは、上田ゼミでの体験があったからだと確信する。私にとっての臨床教育学は「人の話を聴くことは、自分自身が丁寧に話を聴いてもらう体験をしているからこそできる」ことに集約される。

人生を振り返ってみると、導かれるように「子どもの声を聴く」ことに携わってきた。

25年前、子どもの声を聴く電話相談に始まり、ここでは「聴くに徹する」ことを学び、10年間、子どもの声を聴き続け、心を受けとめ、受け止めた声を社会に発信することで子どもの生きやすい社会を目指す活動を行ってきた。そして、今、子どもアドボケイトとして再び、子どもの声を聴き、支援する人としての活動を通じて「聴く」ことの在り方を日々自問自答しながら臨床教育学の学びを深めている。

「子どもの声を聴く」ことは、その後の臨床教育学との出会いによって、点と点が繋がって線となり私のライフワークとなった。これからも「子どもの声」を聴き、子どもにとってよりよい未来のため、この道を進んで行こうと思う。

## 新しい会員の紹介

**恩庄 澄さん（武庫川女子大学大学院臨床教育研究科博士課程に在籍されています。）**

【ご本人からのメッセージ】

お世話になります。恩庄澄（おんじょうきよし）と申します。専門分野は、自治的集団づくりの探求です。公立中学校の退職教員です。率直な意見交換や議論ができればいいなと期待しています。よろしく申し上げます。

## 臨床教育研究懇談会のお知らせ

**日時：2024年2月22日（木）6時～ オンライン開催**

**話題提供：二羽 礼さん（東大阪大学）**

※ 夕方6時より、ハイブリッド開催（対面＋オンライン）となります。詳細は同封のチラシをご覧ください。

## 続 書きたい気持ちが育つまで（小さな学習会5 中谷実践報告）



大阪の公立小学校に勤務されている中谷梓さんから、2年連続で担任した知的障害児学級 ASD（自閉スペクトラム症）のたくと君（仮名）の4年生から5年生にかけての様子を報告されました。中谷さんは、たくと君がクレーン現象といわれる「これは何？」「○○は何？」と見たことに対する質問が多いことに着目され、そこから表現力がついてくるのでは考えられました。一緒にいる先輩から「あなたみたいに受け止めてくれる存在がいるからたくとは話そうって思えるんやからな。」と言われはとしたそうです。身近な支援者の（あなたのことを知りたい。話を聴かせてほしい。）という姿勢は、たくと君に限らず、子どもの発達を促す原動力になるのだと確信されました。

たくと君のノート、漢字学習の横に描かれた絵の分析、算数学習での文章問題に合う絵の提示などを紹介されました。4年生の9月ごろから書き始めた日記の紹介、たくと君が日常生活のさまざまなことに心を動かしていることを具体的に語られました。書きたい気持ちが確実に育っている。"今"を精一杯生きるだけでなく、過ぎ去った出来事を思い返して楽しい気持ちが蘇ってくるとか、まだ起こっていない出来事を想像してワクワクするということは、生きる喜びを更に大きくしていくものと思います。中谷さんはたくと君の姿から、書く時間を大切にすること、生活そのものを大切にすること、それらを読み返す時間をこれからも大切にしたいとして話を結ばれました。

実践報告の感想として「子どもに寄り添い子どもの心の声に心を傾け丁寧に『こども理解』を試みられているご発表は、『臨床教育学』研究として価値深いものだと感じました。また、実践の記録は、私たちがさらに『子ども理解』の研究をしていく上での貴重な資料だと感じました。小さな学習会が、充実した学習会になりました。」「臨床教育学として重要な意味をもつ実践報告だったと思います。とりわけ、『子どもの育ちの内実』を見据え続けた教師（中谷先生）の子ども理解の奥深さを感じました。子ども理解の教育実践を再考するうえでも、もっと多くの人とともに聴き合いたかったですね。」などが語られました。（詳細な実践記録を希望される方は事務局までご連絡ください。）

### 編集後記

▶大会の構想（案）が決まりました。今回は3年ぶりに懇親会も復活します。自由研究発表も含め多くの方の参加をお待ちしております。▶小さな学習会は4回の予定がすべて終了し、どれも好評でした。参加者をどう広げるかが次の課題です。▶季節の節目、寒暖の移り変わりの激しさにとまどう日々です。皆様、お身体ご自愛ください。そして2024年、よいお年をお迎えください。〈文責：吉益〉